

考える楽しさ、作る喜びを見つける 「サイエンスプラス」

12月14日、東北職業能力開発大学校（栗原市）にて「サイエンスプラス」が開催された。これは栗原市内の企業・高校・大学校などの協力の下、宮城県が主催する体験教室だ。小・中学生を対象に「科学の楽しさ」と「ものづくりの楽しさ」を伝えることを狙ったプログラムは約20。中には「3Dプリンター」や「青色発光ダイオード」など、話題のテーマを扱うプログラムも用意されていた。

また「栗原地域人材育成セミナー」として、（公財）みやぎ産業振興機構シニアアドバイザーである白幡洋一氏による講演の後、市内の高校生たちによる事例発表も行われた。

当日イベントは、将来のものづくりを担う人材育成をテーマに開催された。この日、参加者たちは作ったり、触れたり、実験したりする、学びのひとときを楽しみ、終日多くの親子連れで盛況を極めていた。



「栗原地域人材育成セミナー」では、白幡洋一氏による講演「人材が育てる経営、経営が育てる人材」を開催



「黄金比と建築物」では、ケント紙やハサミ、コンパスなどを使って「正十二面体」を組み立てた



地元高校によるLED実習を体験しよう。ここでは、はんだ付け体験。クリスマスに向けて、イルミネーション作成を行った



「3Dプリンターによるデモデモンストレーション」では、3Dプリンターで作ったヒヨコに、思い思いのデコレーションをした



パスタを使って橋を作り、さまざまな方向から力を加える実験を行う「軽くて壊れない橋を作ってみよう」

クルマを知ってエコカーを作ってみよう 大衡中学校で「ものづくり体験教室」開催

ものづくりに興味・関心を抱いてもらうことを目的に、12月16日と18日の両日、大衡村の大衡中学校で「ものづくり体験教室」が開かれた。両日とも、黒川高校機械科の3年生10人が講師となって、自動車の仕組みやものづくりの楽しさを大衡中の2年生に伝えた。

第一部では、自動車エンジンの歴史と種類、自動車の生産方式について黒川高校の生徒がパワーポイントを使いながら紹介。「勉強し



自動車の仕組みについて説明する黒川高校機械科の3年生たち



コンデンサを手に持ちエコカーづくりの手順を紹介する水谷教授



黒川高校生のサポートを受けながら、ミニ・エコカーづくりに挑戦する大衡中学校の生徒たち



完成したミニ・エコカー。あとは試運転を待つばかり

職業人講話「働くとは何か」を通し 働く意義ややりがい伝える

高卒〜3年目の若手社員を対象とした「職業人講話」は、12月21日、TKPガーデンシティ仙台台勾当台で開催された。これは宮城県が主催となって行っている職場定着支援事業の一環。新規高卒者の職場定着率が全国平均と比較して低い傾向にあることを憂慮し、早期離職を未然に防ぐことを目的として行われている。

今回行われたのは「若手社員応援プログラム・ビジネススキル向上セミナー」の第6回目。講師にシンガーソングライターの松本隆博氏を迎え、働く意義ややりがい、松本氏の新人時代の体験談を交えながら働き始めたばかりの若い人たちに伝えた。「初めから完璧にこなせる人はいない。と



年間平均200回の講演ライブを行う松本隆博氏



講演に聞き入る参加者

若手社員の目的意識向上を目指す 「仕事のやりがい発見セミナー&異業種交流会」開催



はじめは緊張していた参加者も同世代との触れ合いで笑顔に

キャリアコンサルタントの鶴田弥生氏

宮城県が主体となって行っている、新規高卒入社〜3年目の若手社員を対象とした「職場定着支援事業」。2月4日にはその一環として、「第3回仕事のやりがい発見セミナー&異業種交流会」が開催された。

1回目は昨年7月、2回目は11月に行われ、今回がその最終回。「キャリアデザイン」をテーマに、仕事に対する目的意識の向上のため、グループワークを中心に講義を行った。「今ある自分から、将来どんな風

になりたいかをはっきりさせれば、周りもそれに合ったアドバイスがくれる」と講師であるキャリアコンサルタントの鶴田弥生氏。啓発の言葉に、参加者は真剣に自分のなりたいたいものを探した。

セミナーのあとは、さまざまな業種が集まっていることを生かした異業種交流会を実施。名刺交換などを行い、違う職種でも同じ世代の人とのつながりができたことで参加者たちからは笑顔があふれていた。



自社のプロジェクトなどについて熱くプレゼンテーション



パネルディスカッションに耳を傾ける学生たち

受け入れ先はすべて地元企業、 大学生のためのインターンシップフェア開催

一般社団法人ワカツク主催による大学生を対象としたインターンシップフェアが2月8日、イベントホール松栄で開かれた。今回で10回を数える同フェアには、地元企業10社が参加。まず現在インターン中の学生と企業担当者によるパネルディスカッションが行われ、引き続き参加企業から学生に向けたプレゼンテーションがあった。

「WEBによる広報やコンテンツづくりなど情報発信をお願いします」、「地域活性化に興味がある人」など各社がプロジェクトの紹介や求める学生像を発表。それを踏まへ、学生が興味を持った企業を訪れて話を聞いた。「自分探しのために」教授から紹介された「参加した学生の動機はさまざま。インターンシップを希望する学生は、3月上旬までにエントリーし、面接を経て合格すればインターン開始となる。



興味を持った企業のブースを学生が訪れて、さらに詳しい説明を受けた

今のうちに知っておきたい社会人のこと 鹿島台商業高校で「みやぎ高校生入社準備セミナー」開催

1月23日、鹿島台商業高校で、同校の3年生を対象とした「みやぎ高校生入社準備セミナー」が開催された。これは県が2009年から実施しているもので、今年度は県内各所で32校2243人の生徒が参加した。

今回は仙台青葉学院短期大学の小形美樹准教授を講師に迎えて行われた。社会人の心構えやマナーなど、社会人になる上で知っておくべき内容に、就職を間近に控えた高校生たちは聞き入っていた。



仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科小形美樹准教授



宮城県鹿島台商業高校進路指導部長青野也寸志教諭

「お客様に対して上司の名前を言うとき、呼び捨てにするというのは初めて知った」と、セミナーを受講した佐藤佳那さんは驚いた様子。佐々木理佳さんは「敬語は相手を思いやる言葉だということを学び、気遣いや心配りが大事なんだと思った」と語った。

「内定をもらっても、就職することに對して実感ができないという生徒が多い。就職前に知っておくべきことを学び取ってもらえればと思う」と進路指導部の引地功教諭は

地域からコンテンツを発信「宮城・仙台 アニメーショングランプリ2015」開催

アニメ制作で有名な(株)びえろの最高顧問・布川郁司氏らを審査員に迎えて開催された「宮城・仙台アニメーショングランプリ2015」。県内のアニメーション制作における人材の育成と、制作企画や技術の面での人材発掘を目的として、2008年から実施されている。

応募作品は年々増加傾向にあり、第7回を迎える今年度は43作品が入賞。2月25日には表彰式が行われたほか、

布川氏や、白石市のアニメスタジオ(株)旭プロダクションの行貞公博氏が講師となり、アニメ業界の「今」を知るためのセミナーも開催された。

受賞した作品は展示会などでも上映される。来年度も開催予定のため、アニメ制作に興味のある方は要チェックだ。



グランプリ受賞作品「乱波」